

砂川遺跡(所沢市)

この道路の先に説明板が立っている





空白部は約「1万3千年前」が正解らしい



所沢市指定文化財

砂川遺跡

砂川遺跡は所沢市で最初に発見された旧石器時代の遺跡です。

昭和四十一年と四十八年に行われた発掘調査の結果、A・Fと名付けた地点から、石器群が集中して分布するブロックが、それぞれ三ヶ所ずつ合計六ヶ所発見されました。

発掘された遺物はいずれも地表下三十〜九十センチの間東ローム層から出土しており、その年代は科学的方法により、今から約 〇〇〇〇年と測定されています。

出土した石器群は、石の素材と接合資料の分析から、三つの類型に分けられるとともに、次のことがわかりました。

- ① 石くずとともに割れ残った石のかたまり（「石核」と呼びます）が残ることから、他の場所から石が持ち込まれ、石器の製作を行い、最終的に残った石核が捨てられたこと
- ② 石くずだけが残り、石核がないことから、石器製作が行われたが、石核はまだ十分使えることから、他の場所へ持ち出されたこと
- ③ 石くずや石核が一切なく、石器や剥片だけが単独に残ることから、石器製作が他の場所で行われ、持ち込まれたこと

このように旧石器時代の人々が、移動生活を営んでいたこと、石核と石器が移動の先へ先へと搬行されていたことが、砂川遺跡の調査によって初めて明らかにされました。

なおA・F両地点から出土した七六九点の石器群は一括して、国の重要文化財に指定されています。

平成十六年三月

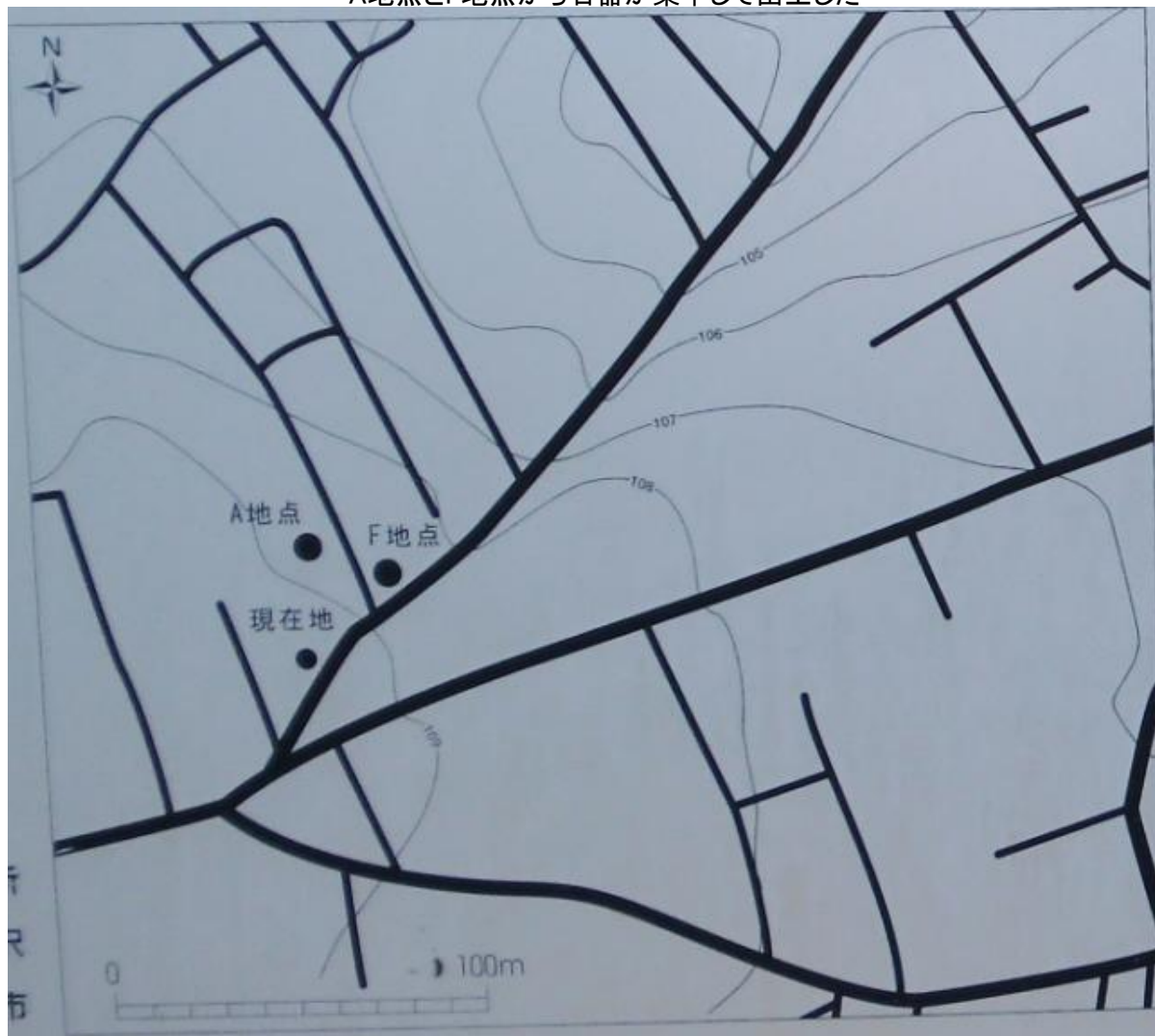


所沢市教育委員会



お問合せ先
所沢市教育委員会文化財保護課
TEL 04-2998-9253

A地点とF地点から石器が集中して出土した



この右手がF地点、左手がA地点となっている





砂川遺跡

所沢市教育委員会

砂川遺跡は、真山丘陵を水源とする砂川の流域に位置しています。当時の土地所有者であった平塚清氏による石器保護をきっかけとして、昭和47年(1966)に明治大学考古学研究室が、その後昭和48年(1973)に所沢市教育委員会が主体となって発掘調査が行われました。



明治大学による発掘調査の様子(昭和47年)

その結果、調査区域内のA地点・F地点から石器が集中して出土しました。発掘された石器は、関東ローマ層中にあり、今からおよそ2万年前の旧石器時代の遺跡であることがわかりました。旧石器時代の遺跡が発見されたのは、市内でこれが初めてのことでした。



調査では、石器の出土地点を記録し、そのほか互いの石器をつなぎ合わせて元の石の形状に復元する向きな接合作業を行いました。これらの作業は、石器群を正しく把握することによって、当時の様子を明らかにしようとした試みで、日本の旧石器時代研究に重要な方向性を与えることになりました。



採集した原料



ナイフ形石器

出土した石器群は、一括して国の重要文化財に指定され、明治大学が所蔵しています。

砂川遺跡の調査で得られた2つの成果

その1 ナイフ形石器の製作工程が把握された

- ① 原石の上下に平面を作り打痕を絞める
- ② 鋭利な剥片を連続的に剥離する
- ③ 石核の上下の平面を常に剥離しやすい状態にする
- ④ 道具の素材となる剥片ができていく
- ⑤ 切る道具、刺す道具として形を整える



これらの工程は、「砂川型技法」と呼ばれています。

その2 石材が人びとの移動とともに遺跡をこえて動いていることが、具体的に明らかになった

接合した資料には、原産(打ち割られる前の状態)に近い状態に復元できたもの、あるいは全く接合ができなかったものなどさまざまなものがありました。石器の製作工程が、砂川遺跡だけで行われたのではなく、石材が他から運び込まれたり、逆に他へ運び出されたりしていたことが考えられます。

つまり、この時代の人々が、絶えず石材を携えて移動生活を繰り返していたことが具体的にわかったのです。



ここでは「およそ2万年前」となっている

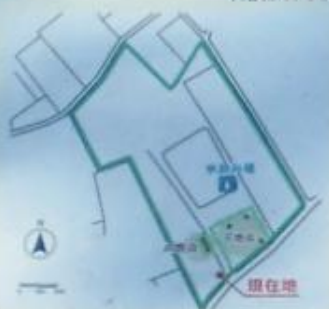
砂川遺跡は、狭山丘陵を水源とする砂川の流域に位置しています。当時の土地所有者であった本橋清氏による石器採集をきっかけとして、昭和41年(1966)に明治大学考古学研究室が、その後昭和48年(1973)に所沢市教育委員会が主体となって発掘調査が行われました。

その結果、調査区域内のA地点・F地点から石器が集中して出土しました。

発掘された石器は、関東ローム層中にあり、今からおよそ2万年前の旧石器時代の遺跡であることがわかりました。旧石器時代の遺跡が発見されたのは、市内でこれが初めてのことでした。



明治大学によるA地点の調査風景
(昭和41年)



調査では、石器の出土地点を記録し、その後お互いの石器をつなぎ合わせて元の石の状態に復元する丹念な接合作業を行いました。これらの作業は、石器群を正しく把握することによって、当時の様子を明らかにしようとした試みで、日本の旧石器時代研究に重要な方向性を与えることになりました。



接合した資料



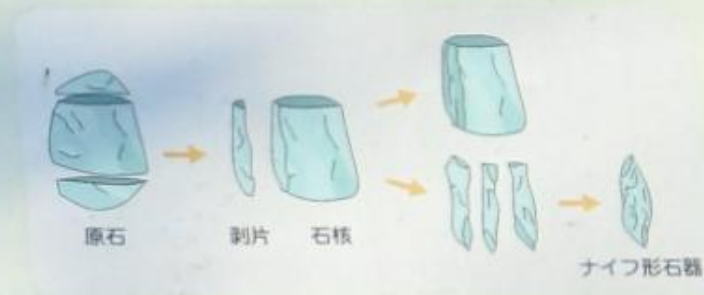
ナイフ形石器

出土した石器群は、一括して国の重要文化財に指定され、明治大学が所蔵しています。

砂川遺跡の調査で得られた2つの成果

その1 ナイフ形石器の製作工程が把握された

- ① 原石の上下に平坦面を作り打面を設ける
- ② 鋭利な剥片^{はく}を連続的に剥離する
- ③ 石核の上下の平坦面を常に剥離しやすい状態にする
- ④ 道具の素材となる剥片ができていく
- ⑤ 切る道具、刺す道具として形を整える



これらの工程は、「砂川型技法」と呼ばれています。

その2 石材が人びとの移動とともに遺跡をこえて動いていることが、具体的に明らかにされた

接合した資料には、原石(打ち割られる前の状態)に近い状態に復元できたもの、あるいは全く接合ができなかったものなどさまざまでした。

石器の製作工程が、砂川遺跡だけで行われたのではなく、石材が他から運び込まれたり、逆に他へ運び出されたりしていたことが考えられます。

つまり、この時代の人々が、絶えず石材を携えて移動生活を繰り返していたことが具体的にわかったのです。



右手がF地点で、左手がA地点/南側から北方向に見たところ



右手のF地点で、石器が集中して分布するブロックが円形に囲い表示されている



ブロックは3か所あり、それぞれが囲い表示されている



F地点の説明板がある





砂川遺跡 - F地点から出土した遺物



こんには、ほく、砂川遺跡から発掘された
アイフ形石器の「**モグクン**」。

F地点から1〜3の3ヶ所で、石の破片が
集まって出土したんだよ。埋の中の
レンガで目撃したよ！(お宝がその場所なんだ)





「砂川遺跡都市緑地」と記された記念碑が立っていた



さて、これは北側から南方向を見たところで右手にA地点がある/左手前方はF地点



F地点と同様にブロックは3か所あり、それぞれが囲い表示されている



A地点の説明板がある





☆ 砂川遺跡 - A地点から出土した遺物



土器は、よく、土器から発見された
ナイフの断片「石器CA」
土器の断片は、土器の断片、土器の断片
切ると、土器の断片、土器の断片
土器の断片、土器の断片、土器の断片
土器の断片、土器の断片、土器の断片

土器の断片は、A1-A3の各地点で
発見された。土器の断片は、土器の断片
ナイフの断片の断片、土器の断片の断片
発見された。土器の断片は、土器の断片
発見された。



南側から見たところ



砂川遺跡の辺りを東側から西方向に見たところ



参考ホームページ

http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/itokoro/enjoy/bunkakyoyo/bunkazai/shishiteibunkazai/siseki/bunzai_20100526103300988.html

http://www.ranhaku.com/web04/c1/2_02sekki.html

<http://blogs.yahoo.co.jp/gahoh007/7267836.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/gahoh007/7799139.html>

<http://chigaku.web.fc2.com/arakawa/shizenteibou/shingashi/sunagawa/sunagawa.html>



参 考
(砂川遺跡周辺にある番場遺跡)

番場遺跡が所在すると思われるエリア



この辺りであろうか



別の角度から見たところ



(砂川遺跡周辺にある石神遺跡)

石神遺跡が所在すると思われるエリア



この辺りであろうか



別の角度から見たところ



(砂川遺跡周辺にあるトトロの森)

ここは砂川堀にかかる不動橋



砂川堀



その先に開けた河畔林が見える







トトロの森14号地



狭山丘陵の豊かな自然環境を保全するナショナル
トラスト運動「トトロのふるさと基金」は、1990
年の発足以来大勢の人たちに支えられてきました。
ここは、2011年1月、14番目に取得した「トトロ
の森14号地」。ゆるやかに流れる砂川堀の、自然
護岸のせせらぎに面した自然豊かな河畔林です。面
積は広くありませんが、たくさんの方の気持ちが実
をむすんで生まれた大切な森です。
この森の風景や生きものたちをあたたかく見守っ
てください。 面積：336㎡



《会員・寄付 募集中》どうか応援してください。

連絡先：《分財》トトロのふるさと基金 事務局

〒359-1164 埼玉県所沢市三ヶ島三丁目 1169-1

TEL 04-2947-6047 FAX 04-2947-6057

ホームページ <http://www.totoro.or.jp/>

